

**授業概要**

原価計算論（実際原価計算）では、企業で製品を製造して販売したり、いろいろなサービスを提供するためにかかる「実際の原価」について学習しました。しかし、実際原価には、把握するのに時間がかかる、作業能率や工程の良し悪しを測定することができないなどのデメリットがあります。そこで本講義では、これらの実際原価計算のデメリットをカバーするために生れた標準原価計算について学習します。

本講義では、講義中に練習問題を解きながら学習していきます。

**授業計画**

第1回	原価計算の全体像
第2回	実際原価計算と標準原価計算
第3回	直接材料費と加工費、加工進捗度と完成品換算量の考え方
第4回	月末仕掛品の評価方法
第5回	月末仕掛品の評価（1）平均法
第6回	月末仕掛品の評価（2）先入先出法
第7回	標準原価計算の意義と目的
第8回	製品原価と月末仕掛品原価の計算
第9回	直接材料費差異の計算
第10回	直接労務費差異の計算
第11回	製造間接費配賦差異の計算（1）
第12回	製造間接費配賦差異の計算（2）
第13回	製造間接費配賦差異の計算（3）
第14回	標準原価計算の記帳方法
第15回	まとめ

**履修上の注意及び予習・復習**

講義中に、練習問題を解くので、電卓を忘れずに持参して下さい。

**評価方法**

出席状況と試験を総合的に判断して評価します。

**テキスト**

清水孝／長谷川恵一／奥村雅史著『入門原価計算』中央経済社